

2019年(令和元年)12月15日(日曜日)



渡辺豊博専務理事から環境保護活動について学ぶ曾筠菲さん(右)＝三島市内で

# 環境保護 三島で研修

## 台湾・曾さんNPO活動に参加

三島市内の自然環境保全などに取り組むNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」で、台湾出身の曾筠菲さん(ニ)が研修に励んでいる。「将来は環境保護や町づくりの分野で、台湾と日本の交流を増やしたい」との思いで、寒さに負けず山林や水辺を駆け回っている。

曾さんは台湾の国立雲林科技大学でデザイン系分野を学び、今年七月に卒業。現在は京都市内に住んでいる。環境保護をテーマにしたイラストやデザイン制作に関心があり、「環境のことを学びたい」とGW三島で研修することを決めたという。

研修期間は今月四～二十

七日。市内の耕作放棄地を畑として再生するための手入れや、河畔林での雑草除去、ごみ拾いなどを行っている。「水辺の作業では、足や顔がずぶぬれになることもあるけど楽しい。自然を守るためには小さい活動を積み重ねることが大事だと実感している」と語る。

市内を流れる川や富士山の美しさも日々の活力になっている。「日本は台湾の都心部よりも家やビルが低いので、散歩しながら景色を楽しめる。三島の人たちのあいさつに、必ず富士山の話が出てくるのがすてき」と笑顔を見せる。

GW三島が海外出身者の研修を受け入れるのは初めて。渡辺豊博専務理事は「曾さんは現場でも主体的に動いてくれている。デザインの知識を生かして、ブログやポスターなどで台湾にも情報発信してもらい、今後も研修生が来るきっかけになれば」と期待する。

将来は日本での就職も考えているという曾さん。「環境保護活動が収益につながる仕組みも研修で学び、社会のためになる取り組みをしていきたい」と意気込む。(杉原雄介)